

目次

「小豆島農村歌舞伎」が重要無形民俗文化財に	1
文化財保護協会を語る⑤	2-3
わが町の文化財【第41回】小西和と瀬戸内海(屋島)	4

支部だより 町の文化財行政への協力と会員の知識向上を目指して	5
国宝建造物所有者対談 ー神谷神社本殿・本山寺本堂ー	6-7
こんな文化財調査をやってきた⑤	8

「小豆島農村歌舞伎」が重要無形民俗文化財に

令和6年3月、「小豆島農村歌舞伎」が重要無形民俗文化財に指定されました。

小豆島農村歌舞伎は、土庄町肥土山、小豆島町中山で受け継がれてきた地芝居で、役者から裏方まですべてアマチュアによって担われていることに特徴があります。すでに重要有形民俗文化財となっている「肥土山の舞台」及び「中山の舞台」と合わせて、そこで演じられる地芝居も共に国の指定になる事例は、全国初です。

小豆島の歌舞伎の歴史は約300年前の寛政年間には行われていたとされ、一時は島内に30箇所を超える歌舞伎舞台が作られるなど、島民に広く親しまれていましたが、戦後の娯楽の多様化に伴って衰退、現

在では肥土山と中山のみに伝えられる貴重な伝承事例となっています。加えて、演技演出の各所に上方歌舞伎の影響がみられ、西日本における農村歌舞伎の展開を示す重要な事例であることが評価されています。

公演に足を運べば、一回きりの役者のアドリブや身体の動き等、映像には無い生の迫力を体感することができます。私自身も、小豆島農村歌舞伎をはじめ、高松市香川町の祇園座や白鳥神社のだんじり子供歌舞伎を見て、娯楽としての歌舞伎の面白さにハマりつつあります。肥土山農村歌舞伎は毎年5月3日、中山農村歌舞伎は毎年10月第2日曜日に公演を行います。今年は、歌舞伎の島、小豆島へ！

(佐々木 涼成)



中山農村歌舞伎奉納の様子



肥土山農村歌舞伎奉納の様子

香川県の近代和風建築-香川県近代和風建築総合調査報告書-

香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課

1. 近代和風建築調査の概要

本調査は、平成20年度、21年度の2年間で実施された。本調査で対象とした建造物は、主として明治元年から昭和20年の間に伝統建築構法を用いて建設された建築物である。本調査により、県内の近代和風建築の所在地、形態・意匠及び保存状況等に関して総合的な把握に取り組み、近代以降の本県の建築技術の水準や建築史の視点から文化的な価値付けが行われた。

調査は1次調査から3次調査まで行われたが、1次調査では各地域の事情に精通している香川県文化財保護協会会員、市町教育委員会の協力を得て調査物件2700件のリストが作成された。2次調査では、建築分野の専門家で組織された調査委員会で179件まで調査物件が絞り込まれ、3次調査では、①保存状態が良好なもの、②地域の典型的な様式のもの、③産業・宗教・風習など地域の特色に関わるもの、④技法・意匠・構造等に特色のあるもの（地域性、希少性、芸術性）、⑤近代的な特徴をもつもの（間取・素材・意匠・技法など）、⑥近世以来の伝統的建築様式の発展形として位置付けられるもの、の6つの基準から73件が詳細調査物件に選定された。73件の内訳は、住宅が27件、商業施設兼住宅が12件、公共施設が14件、宗教施設（神社）が8件、宗教施設（寺院）が11件、その他が1件である。

2. 近代和風建築調査の成果

詳細調査が実施された73件の中でも、特に高く評価された披雲閣（旧松平家高松別邸）が平成24年7月9日、善通寺五重塔が平成24年12月28日に、それぞれ重要文化財へ指定された。その他の調査物件についても、市・町指定文化財や国登録有形文化財として保護された建造物も複数件ある。

また、本調査成果を補強する形で令和5年度に実施された金刀比羅宮本宮地域を対象とした建造物調査の成果がまとめられ、令和6年5月17日に金刀比羅宮本宮本殿・中殿・拝殿ほか11棟を重要文化財に指定するよう答申され、本調査の成果が改めて評価された。

（石田 真弥）



金刀比羅宮本宮拝殿外観

令和7年2月10日発行 香川県文化財保護協会
（香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課内）
〒760-8582 高松市天神前6番1号
TEL:087-832-3786 FAX:087-831-1912
E-mail:shogaigakushu@pref.kagawa.lg.jp
印刷:株式会社 太陽社